
聖人守護者

マダオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

聖人守護者

【Nコード】

N9472T

【作者名】

マダオ

【あらすじ】

神と一つになる時世界を幸せに導くと伝えられる聖人ルーンが神と一つになるために旅をする
そこで仲間との絆を深めていく物語

聖人と魔物

この世界には聖人と呼ばれる

神にも等しい清らかな人間が生まれ落ちる

そのものは神と一つになる時世界に幸せをもたらす

そしてその光を奪わんとする魔のモノも

この世界には存在していた

ルーン「カルマ、カルマ見て見て」

カルマ「なんだよ」

ルーン「四葉のクローバ見つけたよ」

カルマ「なんだそれ」

ルーン「これ見つけたら幸せになれるんだって」

カルマ「俺はそんなもんに頼らなくても幸せだって言うんだよ」

ルーン「はい、あげる」

カルマ「話きいてねえな」

ルーン「早くいこ神様が待ってるよ」

カルマ「だから俺は神なんか…先に行きやがった」

ルーンを追いかけて走るカルマ

すぐにルーンに追いついたがルーンの目の前には魔物がいる

カルマ「ルーン下がってろ」

ルーン「うん」

カルマは持っていた剣で魔物を切り裂く

魔物「ガァァァァ！」

魔物を倒すカルマにルーンは

ルーン「カルマって強いんだね！あの石碑に封印される前は何して

たの？」

カルマ「てめえは知らなくていいんだよ」

ルーン「ふうんならいいや」

そんな会話を交わしながら次の街を目指す

ルーン「ついたよお、ここがメロディアの町だよ」

カルマ「ここにいるのか？」

ルーン「うん、一番奥の家がそうだって私の村の村長さんが言ってた」

カルマ「さつさと行くぞここは人間臭くてかなわん」

そういうと地図に書いてある家に向かう

ルーン「ごめん下さい」

そつと玄関をあける

カルマ「誰もいねえじゃねえか」

ルーン「みたいだね」

????「何か用か？」

後ろから男の声が聞こえる

カルマ「うおっ」

ルーン「あつ、あのこんにちわ私ルーンと言いますクロウさんって方に用心棒を頼みたくて」

カルマ「気をつけろ、コイツ気配もなく背後にきやがった」

????「ルーン……ああ君が聖人のルーンだね、待ってたよ村長からの依頼は受けている」

ルーン「はい、よろしくお願いします」

クロウ「俺はクロウて言んだよろしく」

ルーン「はい、ルーンです。こっちがカルマです」

クロウ「一人でくると聞いていたから何者かと思ったよ」
ルーン「カルマとは道ばたでたまたま会ってついて来てくれたんです」

クロウ「道ばたで？カルマ？…おまえはまさか」

クロウの目つきが変わる

カルマ「なんだよ」

クロウ「いや…カルマ後で二人で話したい」

カルマ「…？分かったよ」

クロウ「明日出発しよう、今日は休むといい」

ルーン「はい」

その夜

海野見える崖にクロウが一人いる

クロウ「来たか…」

カルマ「なんだよいきなり呼び出しやがって」

クロウ「やり過ぎせるところだったか？」

カルマ「何がだよ」

クロウが剣をカルマへ向ける

カルマも身構える

カルマ「何すんだ！？」

クロウ「おまえ、魔物だろ…」

カルマ「な、なんの話だよ」

クロウ「危険な物はすぐに斬る、だが訳があるのならまだ聞いてやらん事はない」

カルマ「だから、なんなんだよ」

クロウ「もう同じ事は言わんぞ」

クロウの目が本気である事を告げていた

カルマ「つく！わかったよ」

そういつとカルマは話し始めた

カルマ「ルーンが俺を助けてくれたんだ…」

アイツと会ったのは俺が封印されていた石碑で会った

あの石碑にに手を合わせる女がいた

それがルーンだった

ルーン「この大きな石碑に神様がいるかも」

そういつて手を合わせるルーン

???「この人間何に祈ってやがんだ？」

ルーン「ん？だれ？」

???「おおお前俺の声が聞こえるのか？」

ルーン「この石碑から？もしかして神様！？」

カルマ「違う俺はカルマだお前俺をここからだせ」

ルーン「いいけど何で石碑の中にいるの？」

カルマ「昔俺の力を恐れた人間の魔術師とやらが俺を封印しやがったんだ」

ルーン「カルマわるい事してないの？」

カルマ「してないさ、なんなら出してくれたら一つ願いを叶えてやる」

ルーン「うゝん、何がいいかなあ？」

カルマ「誰かを殺して欲しいとか、何でもいいぞ」

ルーン「お願いはまだ分かんないから、先に出してあげるね？」

カルマ「おっおいお前俺を信用しちまっていいのか？」

ルーン「カルマが悪い事してないっていったんじゃん」

カルマ「ああ、そうだな早く出せ」

ルーンは祈り始める

すると石碑からまばゆい光が放たれ辺り一面が光の世界と化す

光の中から人の姿がうつすら見える

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9472t/>

聖人守護者

2011年10月9日01時37分発行